

## 障害や難病にかかわるドラマが多い社会現象、どうして？

障害のある子どもを育てた経験のあるお母さんから、「先週から自閉症児を扱うドラマが始まって、最近、障害や難病にかかわるドラマが多いですね。」とのメールをいただいた。

私は、以下のように返信した。

「そうですね。どうしてかなあ～。

私なりの一つの見解は、世の中あまりにもみんなの心が索漠としてるが故に、やはり心の安らぎや豊かさ、また、係わり合いを求め、それを考えようとするドラマが増えてきたのかなあとも思います。

自らの求める心の豊かさを知るためには、他の人との係わり合いを通してしか認識できないですから、障害や難病をテーマにすると、自らを写す鏡のように、よりはっきりと自らを観察でき、至らない点も気づき易いということもあるのではないのでしょうか。また、何よりも「いのち」や「生きる」という、人としての普遍的な永遠のテーマにも関係しますしね。

その時々の中での潜在要求願望に敏感に応えようとする放送局のドラマ制作意図からすれば、あながち私の推論は的外れでもないような気もするのですが……。

物資の豊かさや効率性が本当の人間の求める豊かさだけでないことを、世の中の人々が少しずつ気づき出したのでないかなと、ちょっぴり楽観視もしています。

また、北欧のある国には「見えないことは、解らない。」という言葉があるとか。そうした意味では、障害への理解の一助にはなるのではないかとも思っています。

それにしても障害を描くということは、両刃の面もありますので慎重にドラマ化して欲しいとは思いますが。」

皆さんは、どのようにこの TV ドラマの現象を観ているか、お聞かせいただければ幸いです。

(早速、ある難病のメル友が、「障害者を扱ったテレビ番組は殆ど見たことがありません。障害者の甘えと涙無くしては見られないなどの意見を聞くと腹が立つからです。」とのメールを寄こしてくれた。)

(2004年04月23日記)